



【アカショウビン】

昨年早春の第15号いわて鳥獣保護センター通信では、新型コロナウイルス感染症の影響が私たちの生活に表れているということを話題にあげましたが、その頃は「ワクチン接種が始まればコロナ渦は収まるだろう」と考えていました。そして、岩手県でも令和3年7月頃から一般へのワクチン接種が始まり、10月頃にはワクチン接種が功を奏したのか新規感染者数が低下し、収束に向かうかのように感じましたが、南アフリカで新たな変異株が報告され、それは想像もできないような早さで瞬く間に世界中に広がってしまいました。

ここ鳥獣保護センターに保護搬入される幼少病鳥獣に、人間界のこうした影響は少ないだろうと思っておりましたが、例年、多く搬入されるフクロウの数が減るなどの変化が見られています。

今回の表紙は赤い嘴が美しい「アカショウビン」です。道路脇で飛べない状態でいたところを保護されましたが、その後は元気になり写真のようにカエルを喜んで食べています。アカショウビンに限らず、カワセミやチュウサギのように水中の魚、両生類、昆虫等を捕食する鳥の餌は確保が困難です。代替の餌を考えて食料品店でエビ等を買ってきて給餌を試みるのですが、個体によっては生餌でないと食べてくれません。

鳥獣保護センターには様々な種類の鳥獣が保護・搬入されるので、鳥獣ごと、個体の状態にあわせて餌を工夫しています。限られた予算の中で苦労は絶えませんが、適した餌を速やかに確保し、できるだけ多くの鳥獣を野生に帰したいと思えます。



センターお仕事日記



岩手県鳥獣保護センターは、幼傷病野生鳥獣救護のための施設であるとともに、獣医師や野生動物に係るボランティアの方への幼傷病野生鳥の救護に関する技術指導、野生動物保護等に関する普及啓発として学生のインターンの受け入れや施設見学なども行っています。

今回のセンターお仕事日記は、1件の鳥の保護からつながった素敵なお話を紹介したいと思います。

.....

昨年の8月、センターに「保育園の園児が弱り飛べなくなっている鳥を見つけた」と通報を受け、保護を担当する盛岡広域振興局から1羽の鳥が搬入されました。



【コムクドリ】

確認するとコムクドリで、元気がなく、ふらふらと頭を振っていて、かろうじて立っている状態です。頭をよく見てみると右目の上部がコブのように腫れていて少し目玉が飛び出しているように感じました。すぐに獣医師がレントゲンを撮り、頭骨や翼、他の部分に骨折は認められず、カラスや猛禽類に追われ、逃げているうちに保育園の窓に右側頭部から衝突し、脳震盪をおこしたのだらうという診断でした。脳震盪と打撲なら安静にしていればすぐに良くなるだろうと、保護専用ケージへ移し様子を見ることになりました。翌日見てみると、すでにふらつきはなく弱々しくも飛べる状態に回復し、1週間も経つ頃には右目の腫れもなくなり、食欲も旺盛でケージ内を飛び回り、威嚇してくるまでに回復しました。

獣医師から放鳥可能の判断が出された頃、コムク

ドリの救護を担当した振興局の職員から「鳥を見つけた幼稚園児たちが様子を気にしているので結果を伝えてほしい」と聞き、それなら保育園で放鳥すればコムクドリの元の生息域で安心だし、子供たちも直接元気な姿がみられて思い出にもなるかも、と思い立ち保育園へ連絡したところ快諾いただき、後日保育園へ伺うことになりました。

お伺いした保育園は、鳥獣保護センターと同じ滝沢市にある南巣子保育園です。保育園に到着し獣医師と一緒にケージを抱えて園庭で待っていると、飛び出してきた子供たちにあっという間に囲まれました。園児達は口々に「元気になった！」等と喜び、本当に心待ちにしていたんだなと感じました。我々センターの職員であっても野鳥を手が触れるほど目の前でじっくり見る機会は少なく、普通の生活をしている子供達なら尚更で、園児達はケージを取り囲みじっくり鑑賞してふれあいました。

そして、子供たちの「元気だね!!」の掛け声に合わせて放鳥、コムクドリは勢いよく飛び去り、子供たちも後を追って園庭を駆けていました。

帰り際、子供たちから「ありがとう」の手紙を頂き、見えなくなるまで熱烈なお見送りをしてもらいました。無事に放鳥できて、子供たちにも喜んでもらえて良かった、と安心した瞬間でした。

それから、2か月後の10月に南巣子保育園から施設見学の申し込みがあり子供たちが鳥獣保護センターに来所しました。トビ、チョウゲンボウ、メジロ、ニホンリス、私たちの生活圏内に生息していても日頃、なかなか目の前で見る事が出来ない鳥獣に子供達は大喜びで、説明する我々も力が入りました。



見学の様子



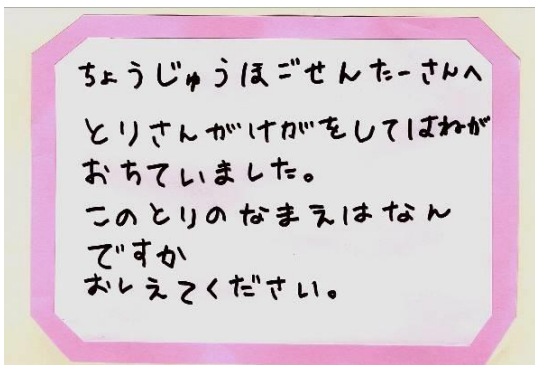
しかし、コムドリ的一件から動物に興味を持ち図鑑などで勉強をしている子供たちはひと味違いました。こちらからの少し難しい問題に対してしっかり正解を答え、逆に子供たちからの質問には冷や汗がでそうになり、プロとして普段から勉強していた良かったと内心ドキドキでした。一番の難題は「ケガをして鳥の羽が落ちていたのですが、鳥の名前は何か？」という質問状。翼を手に職員全員で頭を寄せ悩んだ結果「ウグイス」と判明、改めて鳥の

判別は難しいと思いました。

後日、南巣子保育園の先生がセンターへ来所され、園のお遊戯会で、コムドリを題材にした創作劇を披露したとの事で、子供達からその様子の手紙を頂きました。

お手紙を読んで思いました。今回のコムドリの救護を通して動物を無事に野生復帰させただけではなく、未来を担う子供たちが夢を持つきっかけになればいいなど。我々の任務は傷つき弱った野生鳥獣の救護を行い、野生復帰させて未来へつなぐ自然環境の保全だけでなく、その過程で関わる人たちや地球で暮らす人々の未来にも繋がっていることを忘れず大切にしていこうと身が引き締まる思いでした。

いつの日か、「あの時、コムドリを保護して、センターにも見学に来ました。それがきっかけで...。」という出会いがあったら嬉しいな、と想像したところで今回のセンターお仕事日記はおしまいです。



子供たちからの質問状

南巣子保育園の園児たちからいただいた手紙

ちょうじゅうほごせんたーの
みなさんへ
こむどりさんのけがを
なおしてくれたり、しぜんに
かえるところをみせてくれて
ありがとうございました。
けがをしたとりさんをみつ
けたときのやくそくや
ほいくえんにおちていた
はねのとりさんの
なまえをおしえてもらった

ので みんなでずかんを
みてしらべています。

フクロウ・くま・うさぎ・カモシカ役



コムドリ役



つばめ役

ありがとうございました！
南巣子保育園 りんご組



創作劇『コムドリと石神の丘の動物たち』
コムドリたちは自分たちとは異なる模様の鳥を遠くから見かけ、会いに行くことにしました。石神の丘付近にいくと、そこに住んでいる動物たちに出会いました。

探している鳥のことを聞きましたが、会ったことはあるけど、名前を聞いても教えてもらえなかったと答えた動物たち。なぜその鳥たちは名前を教えなかったのでしょうか...

コムドリは、その鳥が石神山にいるということを知り、また探しに出かけました。

しかし、探している途中で台風に巻き込まれ、ケガをしてしまったコムドリ。助けを呼ぶと、黒い色の鳥が来てくれました。

その鳥は近くのお医者さんと呼んできましたが、コムドリのケガを治すためには、石神山にある巣が必要で、高いところにあるということでした。

それを聞いた黒い色の鳥はコムドリのために葉っぱをとってきてくれました。

石神山の葉っぱのカゲでケガが治ったコムドリは鳥の名前を聞くと、つばめと教えてくれました。つばめは自分たちが黒い色をしているため、動物たちが怖がると思い、避けていたと教えてくれました。

コムドリは自分たちを助けてくれた優しいつばめさんなら大丈夫と励まし、みんなで石神の丘の動物たち会いに行き、一緒に楽しく過ごしました。

南巣子保育園の皆さん、ありがとうございました



保護されたニホンリス



1. 出会い

当センターで私がこのニホンリスと出会ったのは、昨年のお盆の頃でした。

余りにも人懐っこくて、これが野生動物とはとても思われなかったのが、誰かに飼われて人慣れしたニホンリスではないかと思いました。後で保護台帳を見ると、案の定ある寺院の近くで、生後間もないニホンリスを保護した人が、ひと月ほど飼っていたとの事。人慣れした野生動物を自然に帰す事は難しいです。それでも野生動物は野生動物のまま自然に帰すことが私たちの使命です。

2. 野生鳥獣を飼ってはいけない

法律は難しい。どの種の動物を捕獲してはいけないのか？捕獲したらどのような罰則があるのか？私なんか、ちょっと読んだだけではとても理解出来ません。理解できないながらも、鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の適正化に関する法律第8条には

「鳥獣の捕獲及び鳥類の卵の採取等の禁止」

とあるので、一般の人(許可されていない人)が鳥獣を捕獲および鳥類の卵を採取することは出来ない事だと解ります。

違反した場合は、どんな罰則が待っているのでしょうか？

第83条第1項に「第8条の規定に違反して狩猟鳥獣以外の鳥獣の捕獲又は鳥類の卵の採取をした者(許可不要者を除く)は1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処する」とあります。可愛いからと言って許可を持たない者が鳥獣を捕獲することは出来ない事を知っておいてください。

3. リスの反復横跳びは続く

カゴの中のリスは、入口に向かってよく反復横跳びをします。

トットコ、トットコ、トットコ、トットコ

まるで野山を走っている様にいつまでもこの動作を続けます。その音を聞いている私たちもいつまで続けるのだろうか、あきれ位続けます。狭い檻に限らず、大きい檻の中でもこの反復横跳びは見られます。外に向かって時々トットコ、トットコ走っているのを見かけます。

4. 歯の威力

リスは固いくるみの実を手を持って歯で殻を削って中の実を食べます。これは私だけの見解かもしれませんが、私はくるみを手を持ってグラインダーでくるみを割ろうとしましたが、とても出来ませんでした。リスの歯の威力を十二分に理解しました。この歯の威力を身をもって知った職員が若干2名ほどいます。

5. このリスの行先は

人慣れしたこのニホンリスは放獣した場合、あまりにも自然の怖さを知らないため、すぐ他の動物か鳥類の餌になるだろうと思われます。いま、動物公園かどこか行先を探しています



オジロワシ



令和4年1月に奥州市内で飛べずにいるところを保護され、盛岡市動物公園の獣医師や県外の猛禽類に詳しい専門家の助言をいただきながら、治療にあたりました。

猛禽類なので鉛中毒を疑いましたが、検査の結果は違いました。残念ながら2月上旬に亡くなりましたが、貴重な症例として今後に活かしたいと思ひます。



【オジロワシ】

キリッとした横顔は空の王者そのもの！

でも、正面から見ると愛嬌があってキュートです。